

## プロローグ 月下の出会い

こんばんわ、いたいけな男の子君。私はメイア  
通りすがりの大魔法使いよ

あら、恐怖で何も考えられないって顔ね  
そりやそうよね、今の今までモンスターに襲われてたんだもの  
自分が生きてるのが不思議、て感じかしら？

大丈夫、無理に話さなくていいわ  
呼吸をするのも精一杯でしょう

足腰に力が入らなくて立てないんでしょ  
……フフ、涙を目一杯にためて、今にも泣き出しそうね。女の子み  
たい

大丈夫、心配しないで。もう君を襲う怪物はいないわ  
だからほら、落ち着いて深呼吸しましょう  
はいすー、はー。すー、はー

上手よ、その調子で続けて。はいすー、はー。すー、はー

うん、やっと落ち着いてきたわね。今は何にも考えなくていいわ。目の前の地面とか、<sup>かべ</sup>壁とかを見てるだけでいい  
なんならお姉さんを見つめてもいいわよ？

あ、今顔<sup>そむ</sup>背けた。フフ、私の衣装<sup>いしょう</sup>がセクシー過ぎたかしら

強がってるの？かーわいい♡お年頃の男の子って感じ  
ほら、見たいならもっと見てもいいのよ

ごめんね、君みたいな可愛い子を見るとからかいたくなっちゃうの。  
別に食べちゃおうってわけじゃないから、安心してね  
ていうか……

どうして君みたいな子が、こんな夜に路地裏<sup>ろじうら</sup>を歩いてるの？夜はモンスターが出るって知らなかった？

知ってるけど？(聞き返す感じ)

ん一……確かに夜はモンスターが出没する分お給金が多いけど、  
それでも君みたいに細い子が夜出歩くのは危ないわ  
お金がいるって……なにか事情があるの？

っ！君、それ、<sup>どれい</sup>奴隸の刻印<sup>こくいん</sup>……！（驚いた様子）

……なるほどね。確かに、奴隸出身の子はほぼ例外なく困窮した  
生活を送ることになる  
それはその刻印が呪いのように付きまとうから、だと

ふーむ……

（訪れる沈黙）

待ちなさい。どこに行こうっていうの

ていうか君、大事なことを一つ忘てるわよ  
命を助けてもらっておいて感謝の言葉だけって……それじゃあ釣り  
合いがとれないんじゃないかしら？

お金なんかじゃないわよ

君には皮肉に聞こえるかもしれないけど、私有名な魔法使いだから

お金には困ってないの

でも……他のことで困ってるの

弟子になり得る人間がいないのよ。皆私の魔法について知りたがる

けど、根底にあるのは富や名声への渴望

そんな人間に私は魔法を受け継がせたくない

フフ、ここまで話でだいたいの流れは分かるでしょ

唐突な話だとは思うけど、君、私の弟子になりなさい

あら、話が突飛すぎて思考が追いついてないって顔ね

それとも奴隸の刻印をもった自分を弟子にするとか何考てるんだ

この人、とか思ってる？

フフ、正直でよろしい。ま、確かにそう思うわよね

怪しい、何されるか分からない、ただの同情……色々な考えが浮かんできてるんでしょ

じゃあ……そうね、ちょっと捉え方を変えてみましょうか  
どうして君は助かったんだと思う？偶然？幸運？それとも日々の  
善行の賜物？

ブブー、残念。どれも不正解  
答えは……私が君の魔法の才能を見抜いたからでーす

私は魔法のプロフェッショナルだから、人の魔力も見抜けるの  
その人の魔力がどんな性質で、どんな属性の魔法を得意としている  
のか

そしてさっき襲われてる君を見た時、確信したの  
この子は私の弟子にふさわしいってね

君がこの話を信じられるとか信じられないとかはどうでもいいの  
元奴隸どれいだとか関係ない

私は君を弟子にしたいって思ったから、君を助けたの  
そして今君は私に対して大きな借りがある  
命を救ってもらったっていう、大きな大きな借りがね

……まだ命の恩人に逆らうのかしら？ワガママな子ね

じゃあ何？君は……

(耳元に息を吹きかける)

ふうー……こんな魅力的なお姉さんと一緒に暮らすのは無理、とい  
うことを言いたいのかしら

あらあら、顔が真っ赤よ？息も上がってるし膝も笑ってる……かわ  
いい♡

というか、私には君を見殺しにする選択肢もあった  
私がそれをしなかった時点で、君が私の弟子になるのは偶然じゃな  
くて必然だったってこと♡  
というわけで……

これからよろしくね？

## 1話 王様からの召集

おはよう。朝ごはん任せちゃって悪いわね

昨日は考え事してて、寝るのが遅くなったの

え、何？いつものことだから気にしてない？

……フフ、あの泣き虫君が言うようになったわね。弟子の成長って

いうのは、どこか頼もしいけど寂しさもあるわね

……ん？ここを離れるつもりはないから安心しろ？

僕が師匠を守る？……アハ、面白いこと言うじゃない君

まるでプロポーズみたいに聞こえるわよ？弟子のくせに生意気♡

子供扱いするなって言われても無理でーす(子供っぽく言う)

だって君は、いつまで経っても私の可愛い弟子だもの。君の身長が

伸びたって、魔法が上手になったってそれは変わらないわ

ほら、むくれないで。ご飯にしましょう

私は顔洗ってくるから、君は料理を並べてくれる？

何から何まで任せちゃってごめんね

……全く悪いと思ってないだろって？フフ、せいかーい  
師匠の身の回りのお世話は弟子の仕事でしょ？  
私は君の命の恩人なんだから、甲斐甲斐しく世話しなさい  
私の弟子っていうだけで、君には余りある幸せでしょ？  
ほら、分かったなら準備よろしく♡

はー美味しかった。君ってば、ほんと料理上達したわよね  
弟子になりたての頃は料理どころか食器の握り方すら変だったのに  
ん？その話はするなって？はいはい、分かりました  
弟子いじめはこれくらいにしておきましょうかね(冗談めいた感じ)

あ、そうだ。今日私、夕方ごろ用事を済ませすに行ってくるわ  
まあ今日中には帰ってくると思うけど……もし遅くなっちゃったら、先  
に寝ていいわよ。  
なんか王様の城に呼び出されちゃってね？大事な用事みたいだか  
ら、今日中に来るよう言って言われてるの  
はあ……はっきり言ってかなり面倒ね

別になにか私がやらかした、とかではないみたいよ

しょめん  
書面では伝わりづらいから、直接来てほしいんだって  
もしかすると日を跨ぐかもだからいつものアレはできないけど、君は  
大丈夫かしら(ニヤついた感じ)

フフ、本当に大丈夫？大丈夫じゃないって顔してるわよ？

もしかして私みたいな綺麗なお姉さんにしごかれないと、いけない身  
体になっちゃった？

アハ、じょうだん  
冗談よ。ごめんごめん、もうからかわないわ

とりあえずはそんな訳だから、今日帰ってくるかは分からないわ明  
日の午前中とかになるかも

ひるね  
その時にお昼寝できるよう、君は私のベッドの準備しておいて

あ、もちろん修行のノルマもこなしておくのよ

今日の努力は未来の自分のいしづえ。くちす私が師匠から口酸っぱく言  
われたことよ

ついでに他の用事も済ませてくるから、早めに出ていくわね

お留守番よろしく、未来の大魔法使いさん♡

んー……ちゅつ

アハ、顔真っ赤。そんなウブな反応してちゃ、いつまで経っても私を落とせないわよ

ま、そんなところが可愛いんだけどね

じゃあ、またね……明日帰ってきたら、た～～っぷり甘やかしてあげる♡

ん――、疲れたあ。もうほんと大変だったわあ

ありえないわ、あのくさ腐れ王子

ん？なあに？何があったのかって？

……そう！ちょっと聞いてよ君！私すっごく大変な思いしたのだからほら、愚痴言いたいから私の近くに来て？

いつも通り……私の胸の中に

そう、良い子

はあ……こうしてると、疲れが吹き飛ぶわ

なんならずっとこうしていたいもの

ずっとこうしていられたら、本当に幸せなんだけどね

どうもそう言ってられないみたいなのよ

もったい  
勿体ぶつても仕方ないから、順を追って説明していくわね

まずはそうね……私が王城に着いたところからね

まあこっちが呼び出されたわけだから、特に検閲とかはなく、普通に  
王様の所に通されたわ

でも王様は留守で、そこにいたのは息子の王子だけだった

ごえい  
護衛もメイドもいない……なにか変よね？

さしだしにん  
そうよね。手紙の差出人である王様は不在、そして必ずいるべきは

しうにん  
ずの使用人達もいない

こんなのどう考えてもおかしいわ

しゅんかん  
王の間に入った瞬間、私も思わず杖を握ったわ

しゅうげき  
でも、特に何か襲撃を受けたわけじゃないの

王の間で王子が一人、ニヤニヤして立てるだけだった

くさ  
それで、その王子がどうもキナ臭いのよ

じつぶつ  
実物を見るのは初めてだったけど、一目見るだけで嫌悪感がわい  
てきたわ

噂には聞いたことあったけど、その噂の真実味が増した感じ

ま  
……ああ、噂っていうのはあれよ。色々な女性を食いものにしてる

うわさ  
って噂

ひどい話よね、ほんと

それでね？私は警戒しながら、その王子に聞いたわけ  
王様から大事な用件があると言われて来たのですが、これはどうい  
うことなんですかって。何の目的で私を呼び出したんですかって  
そうしたら、あの男は一枚の写真を取り出したわ  
……衣服を破られ、身体中に体液を浴びせられたお師匠様の、ね

驚かないで。まだ話には続きがあるわ

その写真を見た瞬間、私はもちろん激昂したわ

王子を射殺すような目で睨んで、杖を向けたの  
でもそこで私はとあることに気づいたわ。

……杖に、魔力がこもらないって  
そう、私ははめられたのよ。王様の手紙を釣り餌にね

フフ、息が上がってるわよ

なあに？もしかして私を心配してくれてるの？

……大丈夫、今君の目の前にいることが、その証明じゃない  
特に暴力とかを受けたわけじゃないから安心して  
でもその代わりに、とある勝負を持ちかけられたわ

王子様らしさなんて欠片もない、<sup>ていぞく</sup><sup>おろ</sup>低俗で愚かしい内容の、ね

どんな内容か気になってたまらないって感じね。大丈夫、ちゃんと教  
えてあげるわ

でもその前に……ほら、いつもみたいにズボン脱いで

話の内容的にもちょうどいいから、話ながらシテあげる

もう……ほんと、大人になったのに一人で自慰行為もできないなん  
て、恥ずかしくないのかしら

ま、<sup>しつ</sup>そ<sup>う</sup>躊<sup>け</sup>たのは私なんだけどね

よし、ちゃんと脱げたわね

じゃあ早速、何があったか説明していくわね

でもその前に……君のアソコをぎゅーっと握って、と

イキそうになつたらちゃんとお姉さんに報告するのよ？いい？

……よし、いい子

じゃあまずは、私が王子に写真を突きつけられたところからね

その写真には私のお師匠様———<sup>ねんれい</sup>年齢は私よりかなり上なんだ  
けど、見た目は私よりも幼いっていう不思議な人———が写って  
たの

お師匠様はヘンテコだけど魔法の腕は確かで、昔は宮廷魔法使い  
だって聞いたわ

本気を出せば一人で都市を落とせちゃうような人

そんな人が衣服をぼろぼろにされて、全身を汗と白濁液でぐちゃぐ  
ちゃにしている姿で写ってた

初めは別人かと思ったけど、長年弟子だった私には一目でお師匠  
様だと分かったわ

それで私は一瞬で頭に血が登っちゃってね

お得意の霧魔法でその王子をズタズタにしてやろうと思ったの  
もちろん死なないくらいにね。でも、その瞬間気づいたの  
杖に力が入らない。魔力を込められない、って

驚く私に向かってその王子は言ったわ

「無駄だ。この空間はアーティファクトによって魔力が無効化されて  
いる」ってね

あの時のニヤついた顔、君にも見せたかったわ  
本当殴りたくなるから

まあ私は体術たいじゅつもいけるクチだからその場で反抗してもよかつたんだ

けど、まずは話を聞くことにしたわ

まだ相手の手の内も知らないからね

それでどんな用件かを王子に聞いたんだけど……彼はこんなことを  
言い出したの。俺と勝負しろって

意味不明よね？いきなり私を呼び出して、脅迫きょうはくまがいの写真を  
突きつけて、果てには勝負しろ、だなんて

でもまあ、その一言でだいたいの筋書きすじがは理解したわ

魔力の及およばない空間ていじ、提示されたお師匠様ふさいの写真、そして不在の  
王様と使用人

王子はあらかじめ王様に根回ねまわして、私と一対一の状況を作りたか  
ったんでしょうね

お師匠様の写真は、私にその勝負とやらを受けさせるための脅迫きょうはく  
材料

勝負を受けなければ、お師匠様がどうなっても知らないぞ、というね

無理矢理王子をねじ伏せてお師匠様の居場所いばしょを聞くって選択肢せんたくしも  
あったんだけど、それはやめておいたわ

こういう輩は痛い目にあってもしつこく立ち上がってくる

やるなら徹底的に、確実に心を折る。そう思ったの  
だから私は彼の提案する勝負とやらに乗ることにしたわ  
その勝負で、真っ正面から王子の心を折る。<sup>さいきふのう</sup>再起不能になるくらい  
にね  
そう心に決めて、私はその勝負の内容を聞いたわ

その内容は制限時間付きでお互いイカせあって、イッた回数が多い方の負け、というものよ  
ね？ 気品の欠片もない低俗な勝負でしょ？  
……あら、君のアソコはびくびく反応してるわね  
君はこんな<sup>ていぞく</sup>低俗な勝負に興味があるのかしら？ ん？  
……興味あるみたいね。もうこんなに固くなってる  
ほんとにもう、仕方のない弟子ね  
ほら、シゴきながら話を続けるわよ

そこから聞いた話はだいたい予想通りのものだった  
お師匠様を預かっている、返してほしければ勝負を受ける、とのこと  
だったわ  
内心安い<sup>えんげき</sup>演劇でも見てる気分だったけど、どうやら王子は本気みた  
いでの

その写真も偽物じゃないみたいだし、私は勝負を受けることを許諾したわ

そして私が連れていかれたのは王子の寝室

何人も転がれるような、カーテン付きの大きなベッドが一つあって

ね？ その周りには趣味の悪い玩具おもちゃがたくさん落ちてたわ

噂通り色んな女性に手を出してるみたいね

特には気にならなかつたけど、はっきり言って不快だったわ

王子の汚い人間性を見せつけられてるみたいでね

ベッドに座るよう促された私は、杖を置いてベッドの隅に座ったわす

ると王子が隣に座ってきて、こう言うの

「その豊満ほうまんな胸で俺をイカせてみせろ」って

正直嫌悪感けんおかんしかなかつたけど、ちょっとした嗜虐しぎやくてき的な考えも浮かん

できたわ

ここで王子が泣き出すくらい搾りとつて、尿道にょうどうに残つたのも全部吐き

出させて、そのふざけた態度あらたを改めさせようっていうね

プライドがぼろぼろになるまで追い詰めて、イき果てる王子を見ながら私は言うの

「まだまだお子ちゃまね」って。ゾクゾクするでしょ？

私はその考えを実現するため、唾液を胸に垂らして王子のをシゴいてやったわ

勝負を仕掛けてきた割には王子のアソコも大したことなくてね

私の胸にスッポリおさまって、胸を上下させる度にびくびくしてたわ

君のとおんなじ、敏感な弱～いおチンポ

すぐひくついて、情けない声を漏らすの

ヤバイ、とか。イきそう、とか。やめて、とか

ほんと情けなかったわ

すぐに我慢汁が溢れてきて、射精をこらえるのに精一杯

そんな様子を眺めるのも楽しかったんだけど、これはイった回数の

勝負

私は乳圧を一気に強めて、トドメをさしてあげたの

そしたら王子、情けない顔と声で「い、イク！ やめて、やめて！」とか

言いながら無様に射精しちゃったの

ほんっと、無様だったわあ

でも私はそこで手を止めるほど優しくなかった

今度は果てた王子のアソコを握って、絶妙な力加減でこすってあげたの

そしたらもう射精が止まらないのなんのって  
腰を浮かせながら、何回も情けない声で啼いてたわ

「も、もう出ないから、やめてえ」とか。「許して、もう許して」とか

でも仕方ないわよね？だって私を敵に回したんだもの

その時間内ずっとイカせっぱなしだったわ

時間が来る頃には王子はイキ果てて、私の番が回ってくることはなかった

ま王城を出たの

その時にはもう日を跨いでたから、君を起こしちゃいけないと思って

やどや 宿屋に泊まってきたの。そしてさっき帰ってきた

## これが あった出来事の 一連の 流れよ いれん

どう？こうふん興奮した？って……もう射精してるじゃない

出す時は報告しなさいって言ったわよね？

はあ……全く。相変わらず仕方のない弟子ね

まりょくとき  
ま、私が魅力的過ぎるのが悪いんだろうけど……ね♡

(右耳に息を吹き掛ける)

ふうー……アハ、凄いビクッとした。本当、女の子みたいね  
……そういう君も可愛いけど、早いとこ成長して私を守れるくらいに  
なってね  
期待してるわよ……ちゅ♡……フフ

## 1. 5話 王子とイカセ合い対決

ちょ、ちょっとあなた！いつまで手マンして……！

あなたの番はもう終わりよ……！

手を、手を離しなさ……い！？

あ、ちょ、そこ、そこダメ！触らないで！触らない……んああ！！

指が、指が中をゴリゴリって……！抜き、なさい！

指、抜きなさいって……！

そ、そ！アソコ以外ならどこでも触つていいから、アソコは……うあ

ああ！？

だ、だからダメだって！指入れちゃ、あううう！？

こす  
擦らない、で！擦らないでえええ！イぐ！イぐからあ！

さっさから何回も手マンされて、イギやすくなってるの！

だ、だからやめ、おおおああ！？な、なんか当たってる！

ヤバイとこ当たって、ぐうううう！？ああああああ！？

イッで、イッでるううう！

こんなクソ王子に手マンされて、イッ……うううああああ！！？

乳首、乳首<sup>の</sup>摘まむなあああ！

嫌らしい手つきで、コリコリってええ！

や、やめて！やめなさ、はああああん！？

い、イッたあ！またイッたからああ！

も、もう手止めて！止めなさいってええええ！

ひああああああ！！？またイぐうううううう！

し、<sup>しお</sup>潮、<sup>しお</sup>潮吹いちゃうってばああ！

な、なんか、スゴいのきて……！？んおああああああああつ！！？

んひいっ、んひああああ！と、とまんないいい！

しお  
潮とまんないってえええ！！

手、離しなさいよおおおお！もう十分イカせたでしょ！？

満足しなさいよおおお！

……え？じ、じゃあ負けを認めるかって？

……そ、それとこれとは、話が別で

んああああああつ！！？み、認めるからああ！

認めるから手マンやめなさいってばあああ！

ほ、ほんとにもう限界なの！し、潮吹き過ぎてもうきついのお！

だから、もう、やめ……え？

勝負に負けた罰として、今夜一晩ずっとイカせる？

え？じ、冗談、よね？

だって、私、もう十分過ぎるくらいイッたし、水分だって……え？な  
に？

この水を生成するアーティファクトを使えば関係ない……？<sup>せいせい</sup>

いや、そ、そんなこと言われても、私もう限界で……いや、いやよ  
も、もう許して。許し……

うあああああああああつ！！？おおつ！？

おつ、あひつ、おああああああつ！

んひ、ひぐうううつ！おああつ！

おつ、ああああつ、おあああつ、んああああつ！！？

おおおおおあああ！！ああんつ！おおつ！あひいつ！？

ゆ、ゆるし、ひああああああ！

お、お師匠様ああああ！

私、こ、このままじゃ、潮吹くだけの女になっちゃ、んひあああああ  
あああつ！！？

し、潮、とまんないのおお……

## 2話 少しだけ様子が変な師匠

おはよう。相変わらず、君は朝早いわね

いや、私がお寝坊さんなだけかしら？フフ

それにしても、ずいぶんと香ばしい匂いがするわね

もしかして今日の朝ごはんは、スクランブルエッグかしら

どうやら当たりみたいね

君の作るスクランブルエッグ、独特な匂いがするからすぐに分かる

のよね

もちろん良い意味でね？早く食べたいから、ささっと顔洗つてくるわ

ね

……なに？今何か言おうとした？

なんでもないって……逆に気になるわね

そんな思ひせぶりな台詞と表情残しといて、なんでもないことはない  
でしょう

ほら、早く言っちゃいなさい。私と君の仲じやない

……ふんふん、なになに？ここ最近元気なさそうだったから、今日は元気そうで安心した？

あー……そ、そうだったかしら

ここ最近の私、元気なさそうに見えた？

そ、そ。ごめんね？なんか心配かけちゃったみたいで  
何かあったの……って、いや、別に何かあったわけじゃないのよ  
全然大したことじゃないんだけど、ね  
その……あの王子がしつこくって、ちょっと参っちゃってるのよ

ほら、少し前に話したでしょ？

私を城に呼び出して、勝負を受けろって脅迫してきたクソ王子  
その王子がね？勝負に負けたのがよほど悔しかったのか、街中で  
会う度に何度も話しかけてくるのよ  
勝負しろ、今度こそ自分が勝つって  
もちろん無視したわよ？  
でもその度に何度もしつこく食い下がってくるのよ  
私が街中を歩いている時も、依頼を受けてる時も、新人の子に魔法  
を教えている時も  
負けるのが怖いんだろ？  
俺にイカされ過ぎてメスに墮ちるのが怖いんだろ？って  
ほんっと、どの口が言うのって話よね  
勝負に負けてイカされまくったのは自分なのに  
王族らしく、口だけはよく回るみたい

そんな人間にずっと絡まるれるのよ？

いくら私が元氣でも、流石に疲労もたまるわよ

君の前ではいい格好したいから平氣をよそおってたけど……ちょつ

と限界だったみたい

ごめんね？頼れる師匠がこんな情けないと見せちゃって

……ん？そんなことない？なんなら、もっと弱いところもさらけ出して  
ほしい？

……なーに？いきなり真面目な顔しちゃって

大丈夫よ、私はこの都市でも指折りの魔法使い。こんなことじゃ、大  
したダメージにはならな……え！？

ちょ、い、いきなりどうしたの！？抱きついたりして！

(頬を赤らめる)

君普段はもっと消極的じや……え？

あ……も、もしかして、心配してくれてる、の？

わ、私が普段、全然弱味を見せないから……？

そ、そう。そう、なのね

私が全然弱味を見せないから、何か無理してるんじゃないって、

そう……思ってたのね

わ、私、君がそんなこと思ってくれてたなんて、全然……知らなかつ  
た

ごめん、ね？ 知らない内に、色々心配かけちゃってたみたいね

今度からは、その……君にもっと、相談するようにするから

私、君のこと昔みたいに子供みたいに見ちゃってたけど……いつの  
間にか、大きくなってたのね

すぐ近くに頼れる人がいたのに、何でも私がやらなきやつて、変な

意地張ってたみたい

うん……うん……ありがとう

こんなに私のことを心配してくれる人がいたのに、それに気づかな  
いなんて、師匠失格ね

君が私のことをこんなにも心配してくれてるっていうだけで、なんだ  
か、凄く勇気づけられたわ

本当に……本当に、ありがとう

それだけで私、今日も頑張れるわ

今日も、その、夕方から、王子のところに行かないといけないの

楽勝だとは思うけど、あの王子のしつこさには参ってたから、なるべく早くこの勝負を終わらせたいところね

師匠の居場所と無事を確認するまでは、この勝負を避けることはできないし……本当に嫌だし面倒だけど、行くしか選択肢はないみたい

……フフ、そんなに辛そうな顔しないで

私は勝負自体には圧勝してるわけだし、このまま勝ち続ければ何の問題もないわ

前の時と同じように、王子の心を折って折って折り続ける

結局それしかあの性悪王子を黙らせる術はないのよ

王族っていうのはプライドだけはあるみたいだから、ね

はい、辛氣くさい話はもう終わりよ！せっかく君が作ってくれたご飯が冷めちゃうわ！

食べましょう食べましょう！

君に心配をかけたお詫びに、今日は私がアーンして食べさせてあげる♡

それも私の膝の上で、ね……フフ

ただいまー。んー、つかれたー……って、きやあ！

そ、そんな凄い勢いでお出迎えしなくてもいいわよ！

びっくりするじゃない！

怪我もないし、身体の異常もないわよ

だからそんなに私の身体、じろじろ見ないでくれるかしら

……全く。君は私の親じゃないんだから、そんなに過保護にしてくれ  
なくてもいいのよ

君に心配されるっていうのは、悪くない気分だけどね

でも心配は無用よ。今回もちゃんと圧勝してきたから

……フフ、分かりやすく安心したって顔ね

というか君は師匠を何だと思っているのかしら

あの日君を救った偉大な魔法使いよ？

ちょっと弱音を吐いたからって、か弱い女になったわけじゃないわ

ほら、前みたいに何があったか教えてあげるから、寝室にいらっしゃい

心配させた分、今日はた～っぷり甘やかしてあげる♡

さて、始めましょうか……って君、なんでもうそんなに力チカチにして  
るのよ

まだ私何もしてないわよ？

あ、もしかしてだけど……愛するお師匠様が悪い男に手を出される  
ところを想像して、興奮してたり？

なーんてね、冗談よ。君がそんな変態さんなわけないものね……

て、どうして<sup>むごん</sup>無言なの？

もしかして……<sup>ずぼし</sup>図星、だつたりする？

ふーん……そつかあ。へーえ、そうなんだあ

あれだけ私のこと心配とか言いながら、そういうので興奮しちゃうん  
だあ

……ふんふん、なになに？

私が誰かに触られるのは本当に嫌だけど、なぜか身体が反応す  
る？

うつわあ……まごうことなき変態さんみたいね、君

フフ、別に謝らなくていいわよ

男の子の中にはそういうので興奮する子もいるって、知ってるから

お姉さんの<sup>けいけん</sup>経験と<sup>ちしき</sup>知識、舐めない方がいいわよ？

フフ、それじゃあ気を取り直して、何があったのかお話しましょうか

とはいっても、流れ 자체は前回と同じよ

夕方ごろに城に向かって、そこから王子との勝負

その勝負内容が違うだけの話よ

どんな勝負をしたのかって？まあそう焦らないで

ちゃーんと教えてあげるから

今回の勝負はね……絶頂ストック対決よ

フフ、なんだか凄く馬鹿っぽいでしょ？

私も最初そう思ったの

でも、あの王子は当然のようにその勝負を提案してきたわ

勝負の内容も前回とほとんど同じで、一定時間お互いにイカせあつ

て、イッた回数の多い方が負け

ただ今回は相違点が一つあるわ

それは絶頂による快楽がストックされる、というところよ

……よく分からなって顔ね。まあ私も説明を受けた時はそうだつ

たわ

ただそれを一度経験するとよく分かるわ

その快樂のストックとやらを実現させる為に王子が用意していたのが、見たことのないアーティファクトよ

どうやら王族っていうのは世間に公表してないアーティファクトをいくつも所有しているみたいね

それでその道具なんだけど、本来は魔力をストックして、誰にでも使える魔力の供給源を作る為のものらしいの

でもあの王子はそれを応用して、絶頂による快樂をストックさせる用途を思いついたらしいの

そのアーティファクトで身体の状況を観測し、その情報からイット回数を計測

その回数が多い方の負けよ

勝った方はストックされた快樂を受けることなく、負けた方は……ストックされた分の快樂を、一気に受けることになる

脳に、身体に、直接ね

……フフ、君の呼吸、一気に荒くなってきたわね

興奮してるのが丸わかり

ほんっと、どうしようもない子なんだから……♡

君は私が負けて一気に快樂をブチ込まれる姿を想像したんだろうけど、残念ながらそうはならなかつたわ

あん じょう あつしょう  
案の定、私の圧勝

確かあの王子のイった回数が15回、とかだったかしら？

は  
腰が跳ね続けるまで搾ってあげたもの

しほ  
快樂がストックされるものだから、精子を吐き出すことなく、ただ

えんえん しほ  
延々と搾られ続けるだけ

ふざま  
王子が負けて快樂が解放される瞬間なんて、ほんと無様っていう言葉を体現したみたいだったわよ？

ま ち けもの からだ  
馬鹿みたいに精子を撒き散らして、獣みたいに叫んで、身体を何回も跳ねさせながらイき続ける

こうけい  
あの光景を思い出すだけでも笑いが込み上げてくるわ

りせい  
ああ、人って理性を捨てたらこうなるのねって感じだったわ

もしかして君も……そういう風になってみたい、とか言わないわよ  
ね？

……うつわあ。アソコがもうはち切れそうじゃない  
なに？もし自分がその状況だったら、とか考えちゃったの？

へんたい  
ほんっと、変態さんね

えいきょう  
こんな変態さんになっちゃったのは、一体誰の影響かしら？

育ての親の顔、見てみたいものね

……え？ なあに？ 僕をこういう風にしたのは私だって？

そんなわけないじゃない

私は<sup>まじめ</sup>、<sup>あいじょう</sup>愛情たっぷり注いで君を育ててきただけよ？

ま、愛情を注ぎ過ぎてこんなことし始めたのは私だけね

……それが原因？ はあ……<sup>せきにんてんか</sup>責任転嫁は良くないわよ

きっかけを作ったのは私だけど、今みたいな変態さんになったのは

<sup>せきにん</sup>君の責任よ

自分の罪をなすりつけるような悪い子には……それ、ぎゅううううう

っと強く握って握って……ぱっ、とね

あらあら。こんなに精子を吹き出して……男の子なのに潮吹いてる

みたいね、フフ

もう、私の部屋を汚してくれちゃって……いけない子ね、君は

やっぱり君は……私がいないと、<sup>だめ</sup>駄目なんだから

## 2. 5話 王子と絶頂ストック対決

……っぶはあ！ほんとクサイわね、あなたのアソコ

いくら勝負とはいえ、鼻がもげそうになるわ

血管が浮き出てて、今にもはち切れそうなくらい膨張してる……私

の弟子のと違って、何の可愛げもないわね

汚れてるし、何より臭い……こんなのが王族だなんて、嫌気が差してくるわね

……なに？ 昨日あれだけイカされたくせに、随分と威勢がいい？

当たり前じゃない。昨日のは何かの間違いよ

よく考えたら前日にポーションの試飲をしていて、身体の感覚が

鋭敏になった状態だったもの

そんな状態でイカされたところで、ただの事故だとしか感じなかつた

わ

昨日のようにいくとは思わないほしいものね

むしろ……今日はあなたが泣き叫ぶ番よ。あなたのモノなんて触り

たくないけど、勝負という名目上、全力でしごかせてもらうわ

こんなくっさくて汚ならしいモノを咥えるなんて、ホント屈辱的だけど  
……んぶつ

(睨みながら咥える)

んぶじゅつ、んぶつ、じゅるつ、じゅじゅるうつ、んふ、んぶじゅ、ずず、  
じゅぶぶ、じゅるるるる！

じゅるつ、じゅぞぞつ！ ぶぼつ！ んぶつ、んんう、んじゅううう、んは  
つ、じゅぼつ、じゅぞぞぞつ、んふつ、んううつ！

ふう、ふつ、じゅるるるつ！ グボボつ、んぶつ……じゅぞぞぞぞつ！ ん  
ふうつ、んぶ、じゅぼぼぼぼつ！じゅぶつ！じゅぼつ！じゅぼつ！ …  
…ふうう

……今、絶対イったわよね？

分かりやすくびくびくってして跳ね上がったもの  
ガマン汁でだらつだらだし、これでイってないっていうのは無理があ  
るわよね？  
ま、アーティファクトのおかげで射精はしないみたいだけど……

それが吉と出るか、凶と出るか見物ね

(目元、口角を吊り上げて悪い笑みを見せる)

それじゃあ、続けるわよ

んぶじゅつ、じゅるつ、じゅぞぞぞつ！んうう、ぶじゅつ、じゅるるるる  
っ！んぶつ、んうう……！

ふう……フフ、すっごく良かったみたいね

全身びくびく震わせて、情けない声あげて、ずーっとアソコひくつか  
せて

もうしなびちゃってるじゃない

さっきまでの余裕は何だったのかしら

え、なあに？ 正直ナメてた？

前回あんなにイッてたから、フェラで勝手に感じると思ってたって？

はあ……これだから調子乗ってる子って嫌なのよね

すぐに相手を下に見て、相手が思い通りに動くと思ってる

そのくせ、負けたらそれを認めずに何回も噛みついてくる

プライドが高いというか何というか……救いがたいわよね、あなた  
みたいな人って

……ん？ それはお前も同じだろって？

高名な魔法使いだろうが何だろうが、ベッドの上では一匹のメスだつ  
てことを教えてやるって？

……フフ、フフフ、何それ、中々に面白い冗談ね

私のフェラで何度も何度もイった人間の台詞とは思えないわね

一周回って滑稽にすら見えるわ、あなたの今の姿

だいいち、そのしなびたアソコで何をするつもりなのかしら……！？

(驚いた様子)

え……なんでそんなに勃起して……？

さっきまで情けない姿でしおれてたじゃない……！

私のフェラで骨抜きにされて……え？

しぶり取られたのは事実だし、興奮して何度もイきかけたのも、事  
実？

数回はイったけどそれがどうした……って、いや、それは変でしょ一  
度イッたならその後はしばらくの間は勃たないはず、でしょ？ 男の

子って普通はそういうもので……て、な、なんでこんなにガチガチになつて……

俺を普通の男と一緒にするなつて、ど、どういうことよ  
た、確かに身体はできてるけど、あなたなんて魔法も使えない、た  
だの地位だけ持つてる男でしょ。それだけの、はず

……氣に入った魔法使いを堕とすために、色々と工夫をした？  
なにそれ、意味が分からなゐわ

そもそもあなたみたいなのが、お師匠様を捕らえたことも意味不明  
よ。あの人は見た目とは相反して、莫大な魔力を持つ人  
あの人気が負けること自体あり得ないのよ  
なのにあなたは……って、なによ、それ  
なんで、そんなに膨れあがつてるので  
そんな大きさ、見たことな……え？私の魔力を、奪った？  
な、何を言つてるので

そんなこと、お師匠様にもできないことよ  
なのにどうしてあなたにそんな芸当が……の、呪いの刻印？  
一切の魔力を生み出せない代わりに、人から魔力を強制的に奪う  
……？

傲慢な魔法使いの女達を堕とすためだけに、わざわざその呪いを受けた……って、そんなのありえないわ！

そんな刻印、聞いたことも……あ  
そういえば、あの子が、言ってた

刻印にも種類があって、中には誰にも知られてない、呪いと呼ばれる  
ような刻印があるって

奴隸の中には、生きてるだけで魔力を奪う人もいたって  
で、でもその刻印を受けるには、条件があるとも言っていたわ

確かに人から大切なものを奪い続け、罪人として罪を背負う必要があ  
るって

でもあなたがそんな刻印を持っているのなら、王族を追放されてしまう  
るはずでしょう？

刻印を受けた人間は、血筋関係なく忌み嫌われる  
あの子がそれで苦労してきたみたいに……え？

……だったらその罪を、奴隸達になすりつけばいい？  
奴隸の子達を連れていって、魔力を奪った責任をその子達に押しつ  
ける？

そうすれば刻印のことはバレないって……あなた、自分が何を言つ  
ているか分かっているの？

王族どころか、人間として最低のことをやっているのよ？

……っ！あなたもしかして、そうやって連れてきた奴隸の子をダシに  
してお師匠様を……！？（王子の行ったことに気づき、驚く）

…………そう。クズだクズだとは思っていたけど、あなた本当に救

いようのない人間みたいね

決めたわ。私はあなたを消す

あの子の師匠である以上、そんなことをするつもりはなかったけど

でもあなたが存在し続ければ、お師匠様も、あの子も、たくさんの奴  
隸の子達も苦しみ続ける

そんなのは見過ごせないわね

（いとおしそうに、一人ごちる）

……前はもっと冷酷な人間だったはずだけど、あの子に感化されち  
やったかしらね（小声で話す）

（決意を決め、冷淡な声色になる）

今はアーティファクトの影響で魔法は使えないけど、肉体は自由に動く

魔法でしか戦えない魔法使いは二流って、私はお師匠様にそう教わってるのよ

ここであなたを消して、お師匠様を解放する

勝負を投げ出せばお師匠様やあの子に危害が及ぶと思って受けてきたけど、もうその必要はないわ

あなたを消す覚悟が、これまでの私には足りなかっただけ  
その舐めきった態度も、これまで——んぢゅつ！！？

(一気に距離をつめられ、いきなりキスをされる)

な……！？や、やめなさい！けがらわしい！

顔近づけないで……んぢゅううつ！？

ぢゅ、ぢゅるるううう！や、やめなさ……！

舌で、口、強引にこじあけ……ぶぢゅうう！？

んう、んづづうううつ！ぶじゅつ！じゅるるるるうつ！

んぶつ、んじゅううう！んじゅつ！はあ、はつ……！

な、なんのよいきなり……！

し、勝負の続き？今度はこっちの番って……ぢゅうううつ！？

れろ、れろお……だ、だから、舌いれるな……んぶうううう！

じゅぞつ、ちゅうううつ！じゅぶぶつ、んぶうつ、じゅるるるるつ！か、

身体、ガッチリ掴まれて、動けな……ひあつ！？

あ、アソコ、膝<sup>ひざ</sup>で、お、押すなあつ！押す、な……あああああああつ！

ひ、膝で何回も、ぐりぐりいって、んひ、んひああああつ！？

んぐ、んおあああああつ！ま、まず、い……い、い、ぐうう……んじゅう！？

キス、やめ……じゅるつ、じゅぞぞぞぞつ！？

ちゅうううつ！んぶうううう！んぶつ、んじゅつ、れろ、えろお、

じゅぞつ、んじゅうううううつ！！？

はあ一つ、はあ一……はあ、はあ。な、なんのよ、あなた

と、というか、さっきのスピード、普通<sup>ふつう</sup>、じゃない……な、何をした、のよ

う、奪った魔力を使っただけ……？

接触<sup>せつしょく</sup>すればするほど、魔力を奪える……？

そ、そんなの聞いてな……きやあつ！

な、なによ、いきなりベッドに押し倒して！

いい加減にしないとあなたの命を……え？

今から、挿入する？挿入するって、な、何を？

分かってるだろって……だ、<sup>だめ</sup>駄目よ  
い、今あなたの番は終わつたじゃない  
なのに続けるなんて、ルール違反よ<sup>いはん</sup>  
……私が30分以上してたのに、そっちはまだ10分もしてない?  
そ、そんなわけないじゃない  
そんなわけが…………んおつつ！！？

あ……う、い、あ……！おお……あ…！んぎ……んう……！い、うあ  
……！  
い、いぎな、りい……！そん、な、太いの、おつつ！！？  
あ、んお……！あ、あそこ、が、あ、<sup>あっぱく</sup>圧迫されて……！  
んぎいっ！？う、うちつけるの、やめ……おあああつ！？  
ご、ゴムしてる、のに、ひ、一突きで、イ、ぎゅううううつ！？

あ……は……、や、やめなさ、い……

こ、こんなの続けられたら、私……おつつ！

あつつ！ああつつ！んああああああつつ！！？  
ひ、ピストンやめなさ、いいいいいいい！？

んぎいっ！あうつ！おつつ！おつつ！？ひぎっ！？

ひ、ひおつ！おあああああああつ！？

や、やめなさいよおおおおおつ！？

うあああああああつ！？あつ！ああつ！？ああああつ！？

……お……あ……！う、んう、んうう……！か……は……！お……

ああつ……！

い……イッて、な、い……！

わ、私、全然、イッてない、か、らあ……！

こん、なので、イクわけない、し

あ、あの子の方が、絶対、いい、し

……は、はあ？じゃあイッた回数を確認してみるか、って……？

ご、ご自由にどうぞ。どうせあなたの方が多いに決まってる、でしょ

う？

わ、私は全然、イッてない、わけだし。ほら、早く見せてみなさ……

あ？

あなたが3回で、私が15回……？

そ、そんなわけないじゃない。逆になってるのよ、き、きっとそうに決  
まって……はあんつ！？

え……？な、なによ、今の

からだ でんりゅう  
身体に電流みたいなのが、びりって

……ストックされた分の快楽が、勝負に負けた私に流れ始めた？

い、いや、だから、そのカウントは変で……あなたがな、何か、細工  
したんでしょう！

……アーティファクトの細かい設定は変えられても、<sup>おもと</sup>その大元の  
きのう  
機能は変えられない？

<sup>たいしよう</sup>ストックする対象は変えられても、カウントの<sup>きのう</sup>機能と、ストックの機能  
は変わらないって……じゃあ、なによ

私はあなたみたいなクズに、15回もイカされたっていうの……！？

そ、そんなの認められるわけ……んひっ！？

な、なによこれ

身体が、勝手にびくびくって……！

快楽が、私の身体全体に流れ始めてる……？

ふ、ふざけないで！こんな勝負、認められるわけ……ひあつ！？う、

うそ……何もされてないのに、こ、腰があがって……！？

か、カウントダウン？快楽が解放されるまで、あと5秒？

ちょ、ちょっと待ちなさい！む、<sup>むこう</sup>無効よ、こんな勝負！

私があなたみたいなクズに負けるわけが……あつ！？

ま、待って、やめなさい！やめ———ああつつつ！！？

(カウントが0になり、一気に快楽が流れ込んでくる)

んう～～～～～～つ！！？おおつ！？？ああんつつ！？  
ひつ、ひぐ、おおお……！？お、ああ……つ！！あ、ひ……！  
い、イかな、いいい……！こん、なので、い、イって、たまるもの、で  
すかあ……！  
んううううう……！待ってて、ねえ……！  
君のところに、帰る、からあ……あ？  
ち、ちょっとあな、た……そこ、クリトリ、ス  
や、やめ、やめなき、い  
か、皮むいて、直接さわるとか、そ、そんなの絶対だめに決まって…  
…！

おああああああああああああああああああつつつ！！？  
だ、だめっ！やめっ……んぐおおおおあああああああああつ！！？  
や、やばいっ！これ、イクの止まらな……おおおおおおおあつ  
つ！！？  
い、いぐ、いぐ、いぐうううううんつ！！いつぐ、いつぐううう……！  
い、いっでる！いっでるううううつ！  
とめ、とめなさいよおおおおおつ！！

んおおおおおおおつつ！！？

あつ！？ああつ！？あんつ！あつはあつ！

じぬ、しんじや、あううううううつ！！？

これえ、<sup>しお</sup>潮、でぢや、あああああああだめええええええつ！

うああああああああつ！！？だめつ！だつ……めえ……！

と、とまって！いくのとまつ……やあああああああんつ！？

潮、あふれてとまらないいいいいい！！

もういくのやあああああああつ！？

(あまりの快楽に強く深イキし、呼吸が中々できない)

お……あ……つ！あ…………い、ぐ……う……！

か…………はつ……！おお…………あ……！

や、ば…………！まっ…………、ああ……お…………！

いぐ……いぐう…………あつ……！

(ついには失禁してしまい、膝から力が抜ける)

はあ一つ、はあ一つ、は……あ……！

はっ、はっ……あ、んつ……う、んうううう……！あつ…………！お…  
…お…………！あ……おお……！  
……わ、たし、は……まけ、な、いい…………！

### 3話 決意の朝

……おはよう。今日の朝ご飯は、いったい何かしら？

君お得意のスクランブルエッグかしら？それともサンドイッチ？あ、ソテーとかの可能性もあるわね

ま、どうせ君のことだから、どんな料理でも美味しく作るんでしょうけど

フフ、食べるのが待ち遠しい……え！？

な、なに？どうしたの？急に私の手を抑えこんだりして……

ま、まだ朝よ？もしかして、私の魅惑的なスタイルを見て、興奮しちゃったの？

ご、強引なのは嫌いじゃないけど、君にはあまり似合わないと思うわ……って、ち、違う？

違うって、何が……私が魅惑的なスタイルをしているのは知ってるけど、別に<sup>おそ</sup>襲ってるわけじゃない？むしろ、守りたい……？

ど、どうしたのよ。君の言ってること、全然分からないわよ

君らしくないじゃな……え？らしくないのは、そっちの方？

そんな元気のない顔を見たのは、初めてって……そ、そんなわけないじゃない！

私は、ほら、こんなに元気よ

君が心配することなんて、何一つないわ

だから、ほら、食べましょ……きやつ！？

ちょ、ちょっと、そ、そんなに強く抱きしめられたら、痛いわよ

本当にどうしちゃったの？いつもは君、もっと落ち着いてるじゃない

ほら、私は大丈夫だから……

(大丈夫じゃない！と主人公に強く言われる)

な、何よ。そんなに怒らなくてもいいじゃない

だいたい、君に私の何が分かるって言うのよ

確かに、君に頼ることがあるかもとは言ったけど、それは今じゃない

むしろ君が関与することで、悪い方向に転ぶ可能性もある

どういうことって……それは……

……ごめんなさい、今は、言えないわ

それと……君の心配を拭えるかは分からぬけれど、あの王子との勝負は、今回で最後みたいよ

本人がそう言っていたし、魔力を遮断するアーティファクトも、そう何回も使える代物でもないみたいだから……

今回を乗りきれば、君が心配することも無くなるわ

今回の勝負が終われば、今まで通りの生活に戻れるの

だから……今は……今だけは……そっとしておいて

……手紙、とてくるわね

(玄関で立ち止まり、指を噛んで快樂に耐える)

ふーつ……！ ふーつ…！ よかった……！ なんとか、あの子には知られずに……んっ！ すんだ、わ……！ んうつ！

はあー、はあ……こんなとこ、あの子には見せたくない……！

ごめん……ごめん、ね……君が……君が大切だからこそ、今回は相談できないの……！

本当に、ごめんなさい……！ でも……心の底から、愛してる、から……！

だから…………待ってて

### 3. 5話 王子と我慢対決

来てあげたわよ、クズで救いようのない王子様

ずいぶんな態度たいどだって……当たり前じゃない

これまでの自分の行いを忘れたのかしら

奴隸どれいの子達に罪をなすりつけ、その子達を人質ひとじちにお師匠様に手を

出し、果てには私の弟子まで脅迫きょうはくの対象たいしょうに……！

本当に人間として終わってるわ、あなた

今すぐ私の霧魔法きりまほうでずたずたにしてあげたいもの

できもしないことを言うな……？

あら、私は本気よ？ 今回の勝負が終わり次第、命をかけてでもあなたを消すわ

あなたという存在は、この世界に不幸を撒き散らすもの

悪い芽は私が摘んであげるの

あの子やお師匠様が幸せに暮らせるように、ね

それと、あなたが仕込んだこの悪趣味あくしゅみな玩具おもちゃ、もう外してもいいかしら。うっとおしくて仕方がない……のっ！？

……ほんっと、<sup>へど</sup>反吐あくしゅが出るほど悪趣味あくしゅみなのね、あなた

別に褒めてないわ。ただ侮蔑してるだ……けっ！？

ん……んう……！

……こんなことして、何が楽しいのかしら

傲慢な女がよがっているのを見たい？ああ、そう

そんなことどうでもいいから、早く今回の勝負の内容を教えてくれないかしら

早く帰ってあの子を安心させたいの、私

あなたみたいなクズとはまるで違う……健気で優しい、私のたった一人の弟子を

だから早く今回の勝負を教えてちょうだい

あなたにかまってる時間はないよ

それで、何をするのかしら？またイかせ合い？

それとも別の悪趣味な何か？なんでもいいから早く……え？

何もしない？

……どういう意味かしら。言葉遊びをしてるひまはないんだけど

俺は何もしないって……だったらどう勝負するっていうのよ

そんなの勝負のしようが…………我慢、勝負？

いまさら、なにを我慢しろっていうのよ

もしかして、この玩具おもちゃでいかないように我慢しろってことかしら？この  
玩具おもちゃ以外のものも私に着けさせて、それでもいかなかつたら私の勝  
ち、とか

あなたのその汚れた思考を汲くんで考えてみたのだけど、どうかしら  
大当たりだつたりする？

……当たらずも、遠からず？

どういうことよ。早く説明しなさい

ん……何よこれ。紙？

今回の勝負におけるルールだって……今までそんなの無かつたじ  
やない。どういう意図いとよ

まずは読め？はいはい、わかったわよ

えーと……基本的なルールは、玩具をつけてこの部屋で過ごすだ  
け。窓や扉を開けることは禁止する

脱走だっそうの危険性きけんせいがあるため、手はベッドに拘束こうそくする

そしてこの部屋で過ごす際には、とある映像を見てもらう

日を跨ぐまでが勝負のリミット

日を跨いだタイミングまたで王子おとずが部屋さいを訪れるので、その際ある言葉  
を口にしなければ勝利となる

ふーん……ここに書いてある、ある言葉っていうのはなんのかしら

……あなたが部屋を訪れた時、「イカせてください」と言わなければ私の勝ち？

へえ、そう……中々面白いジョークを考えるのね、あなた  
私があなたにそんなこと言うなんて、世界が滅びるくらいあり得ないことよ

私がそんな台詞を口にすると本気で思っているのかしら  
なんにせよそうなるのは時間の問題だって……その自信はいったいどこから湧いてくるのかしらね

まあ、いいわ  
どうせこの勝負が終わったら、あなたと会うことはないんだから  
手早く終わらせて手早くあなたを消してあげる

それで……私はベッドの上にいればいいだけ？  
特に何もしなくていいのよね  
あ、でも部屋で過ごす際にはとある映像を見てもらうって書いてあつたわね  
何の映像を見るのかしら

すぐにわかるって…………え？

ちょ、ちょっと、あなた、これ…………！？

(思わず赤面するメイア)

これを見ながら一晩過ごして、あなたのアソコを欲しがらなければ

私の勝ちって……あなた、本当にどこまで悪趣味なの……！

というか、こ、この映像どうしたのよ！

いつの間にこんなものを……！

あ、アーティファクトでこっそり撮影してた？

あ、あなた、ふざけないで！そんなこと一言も言ってなかつたじゃな

い！たまたま撮れただけって……そんなわけないわ！

むだん 無断でこんなことするなんて、それこそルール違反よ！

こんな勝負、受けてられな……きやつ！？

こ、この……強引に、手を……！く……なんて、力……うあつ！

くっ！こ、この……離しなさい！こんなの、認められないわ！今すぐ

手を解放しなさ……んうつ！？

くうつ！<sup>しんどう</sup>振動が、強くなつて……！この、クソ王子……あああつ！？

振動が、アソコ全体に響いて……！んんつ！

ちょ、ちょっと！？どこに行くのよ！この映像を止めなさい！

そうしたら、あなたが出した条件を呑んであげるから！

だから止め…………え？この映像を流すのは、絶対条件？

だ、だめよ！<sup>ぜつたいゆる</sup>絶対許さな……あああつ！

ちょっと！ま、待ちなさい！待ちなさ…………んううううつ！？え、映像止め…………！

(ゆっくりと呼吸するが、時おり荒い呼吸になる)

はー……はー……は、あ……はっ……は……はあ、ああ……

ふつ、ふうつ……はあああ……あつ、あ……はあ……

はっ、はっ……んう……はあ……

ん……あつ……あ…………

(もうろうとした感じで話す)

あ、ら……やっと、戻ってきたの、ね……

すいぶんと……遅い、登場じゃない……

日を跨いで、から……もう、1時間は経ってるわ、よ……

……なんで、時間がわかるのか、って？

フフ、魔法使いたるもの、体内の……魔力の循環で、たいていの、

時間の目星はつく、のよ……

それで、時間に遅れたのは、どうしてかしら……？

忘れてたって……そんなわけ、ないでしょう

どうせあなたのことだから、焦らして、焦らして、堕としてやろうって

……そんなしようもないこと、考えてたんでしょ？

……フフ、図星、みたいね

どうせ、そんなことだろうと、思ったわ

ほんとにしようもなくて、子供じみて、救えない……けど

あなたのその<sup>さく</sup>策、ちょっとは効果があったみたい、よ……

ほら、私のアソコ、もう汁が溢れて止まらない状態なの……もう、服

にも、ベッドにも、染み込んでる

今すぐあなたを<sup>ののし</sup>罵って、殴りかかりたいところだけど……正直、そ

の余裕はないわ

身体の火照りも冷めないし、息も整えられない。ずっと軽イキして、

上手く力も込められない……

ま、言葉通りお手上げってやつかしら、ね……

あら、ずいぶんと大きくしちゃって……今の私の姿を見て、興奮しちやつたのかしら？

……この部屋に漂ってる、強烈なメスの匂いに反応した……？

へえ、そう。まだ私はあなたのアソコを欲しがってなんていないけど、ね

……じゃあそのヒクつきはなんだって？

さあ……私の身体が玩具に反応してるだけじゃないかしら

これは自然的な反応でしょう？

別にあなたのモノを欲しがってるわけじゃない

でも、そんなに挿入したいのなら……してもいいのよ？

お姉さんがあなたを甘やかしてあげるわ

……あら、不満そうな顔ね。何か気に障ったかしら

……挿れてもいい、じゃなくて、イかせてくださいだろって？

そう言えば、楽にしてやる？

ふーん……なるほどね

君はどうしても私にそう言わせたいみたいね

はあ……しょうがないわね……

私もアソコがずっと疼いて、どうにもできない状況なわけだし、ね

あなたの望み通りにしてあげるわ

ほら、こっちに来て

フフ……すっごい匂い

クサくて熱っぽくて……私を抱くことしか考えてない、いやらしい匂い

ね

なんだかあなたのモノを見ているだけで、頭がボーッとしてくるわ

だから……ほら……あなたの逞しいものを、私のアソコに……

(一転、ニヤついて馬鹿にしたような態度になる)

なんて、そんなこと言うと思ったかしら？

いらないわよ、あなたのなんて

……アハ、何その顔。怒ってるの？お姉さんに煽られて、怒っちゃ

ったの？ 可愛いボクちゃんね

なに？ 私がこの程度の焦らしであなたに屈すると思ったのかしら

あなたの想定では、今ごろ私はあなたのモノを求める淫乱な姿を晒いんらんさらしていたのかしら？

フフ、本当に笑えるわね

あなたがそんな叶いだいもしない望みを抱きながら今まで過ごしていたのかと思うと、本当に笑えてくるわ

……今ならまだ間に合うから、素直になれ？

はあ……まだ分からぬのかしら

あなたのモノなんて、いらないって言ってるの

私が欲しいのはあの子のモノだけ

なんでも自分の思い通りになると思ったら大間違いよ、王子様

勝負の条件では、私があなたのモノを欲しがらなければ私の勝ち、  
だったわよね

あなたは腐っても王族なのだから、きちんと約束は守ってくれるのよ  
ね？

お師匠様の解放と、私の弟子に金輪際手出しをしないっていう約束  
は

(不承不承ふしようぶしょう、王子がそれを認める)

……王族として、最低限の配慮はあるみたいね。安心したわ  
勝負に負けた今のあなたには酷でしようけど、この拘束を解いてくれないかしら？

何時間も拘束されて、手も痛くなってきてるの

……まあ、あなたも中々納得できないでしようから、サービスでご奉仕くらいはしてあげてもいいわ

それを最後に、私達が会うのは終わりよ

拘束を解いてくれるなら、あなたを消すことまではしないわ

だからほら、早く拘束を解いてくれない？

この状態じゃ、ご奉仕もできないわ

……え？ 何？ お前は何か勘違いをしている……？

どういう意味よ。約束を守らないつもり？

……約束は守る。お師匠様も解放するし、弟子にも手を出さない

じゃあ、なに？ 何を勘違いしてるっていうのよ

……これまでの勝負は、その二人を解放するための勝負？ お前はまだ解放されていないって……なにそれ、意味が分からないわ

……今から行う勝負は、私を対象としたもの？

勝負に勝てば解放、負ければ俺のものだ……って、ど、どういうことよ！

勝負は終わったはずよ！早くこの拘束を解きなさ……あつ！？

(アソコに入れられていた玩具を引っこ抜かれる)

オモチャが愛液でぐじゅぐじゅになってるって……そんなこと、どうでもいいわよ

さっきの言葉の意味を教えなさい

……勝負内容は朝まで生でやって、100回イかなければ私の勝ち？100回以上イッたら私の負けって……ちょ、ちょっと！何を勝手に話を進めてるのよ！

私はそんなことを聞いているんじゃなくて、勝負はもう終わったって話を……！

(抵抗できないメイアに、王子がアソコを思い切り挿入する)

あつつ…………！！？

おつつ…………！お…………！あ…………つ！？

う…………あ…………！か…………はつ…………！

おお…………！い…………あ…………つ！？

なに、を、勝手に…………あんつつ！！？

ちょ、つと…………まちな…………お“ああつ！！？

つ、突くの、やめ…………うあつつ！！？

じ 焦らされてた分が、一気に…………んあああああああつつつ！！？

あつ！あうつ！

も、もれ、もれちゃ…………んひいいいいんつつ！！？

あ“あああ“つつ！！？きたないっ！きたないのにいっ！？

も、もうおわりっ！勝負はもうおわっ、やああああああああつ！！？

な、生！生はだめだってばあああ！

し、<sup>なま</sup>子宮、<sup>なま</sup>ぶぢゅって！ぶぢゅって潰されてるのおおおおおつ！？

そ、そこはあの子の場所！あの子の場所なのっ！

だからよごさないで！よごしちゃだめなおおおお！

こ、このお！このくそ王子い！あんたなんか、あんたなんかあああ…

…………んじゅつ！！？

(強引に口を塞がれる)

じゅっ、んじゅうつ、じゅるつ、んぶつ、んぼおつ、ちゅううううううん…

…んぶつ！？

ちゅっ、ちゅぼつ、し、舌、吸われて……じゅぞぞぞおおおおつ！

じゅっ、ちゅるるつ、んじゅっ、じゅぞつ、ちゅろろおおおおつ、んふつ、

じゅっ、ちゅぞぞつ、んぶ、んふうううう、ちゅちゅつ、じゅるるるつ！

……んぶ、んぢゅ…………ふ、はあつ！

……はあ一、はつ、はあ一……はつ、はつ、はあ……んつふ……い

き、できな、い……！

はあ一一、はあ一一…………え

いま、から……朝まで、休み抜きで、やる……？

うば  
奪った魔力を、直接、<sup>しきゅう</sup>子宮に流し込みながら……？

な、なに言ってる、の。そ、そんなことしたら、おかしくなっちゃう、わ

…………は？子宮だけじゃなくて、<sup>じやくてん</sup>私の弱点全部に、魔力を流し込む……？か、快樂でぐずぐずに溶かして、一匹のめ、メスに<sup>お</sup>堕としてやるって………

だ、だめ、そんなの絶対だめよ。ほんとに、ほんとにだめ

わ、私はあの子の師匠なの

私がいないと、きっとあの子は苦しむわ  
ぜ、絶対無いとは思うけど、仮に、仮に私があなたなんかのものになつたら、あの子はひどく悲しむことになる  
私はそんなの絶対にいや……だから、だから、いま、ここであなたを  
消し…………あ？

(子宮まで貫かれ、一瞬何が起きたか分からなくなる

…………あ“…………お“…………ああ“つ…………？う“つ……お  
…………やつ……あ“…………あ、はつ…………！んう“……ひ……  
…！う“つ……や、あ“……んお“つ…………！ちょ、ちょっとまつ…  
…………これ、だめ……！

お“お“お“お“お“お“お“んつ！！？だ、だからまつ、これ…………  
んお“つ！？  
お“つ、お“お“おおんつ、あ“つ、あ“あ“あ“ああんつ、うう“つ、おつ、おつ  
ほ、あ“あんつ、ぐつ、お“ほおおお、んふつ、んおおおん……！  
ぎ、ぎもちよぐないつ！こんなのお、ぜんつぜん、きもちよくなんか、  
お“つほおお……！  
イつでない……！イつでないって、ばつっ！！？

ちくびい、ちくび、いじめるな……んおおおつ！

こり、こりって弄られて、おつ、おほおおつ、や、やばい、くらい、ちくび  
勃つて……んぎゅうううつ！？

ち、ちくび噛むな、あつ！うつ、あ“がつ、じゅるじゅる吸わ、れ、んひ  
いいんつ！？お“つ、あひつ、あ“はつ……！

う“う“つ、あがあつ、ひつ、う“う“んつ、やつ、お“お“お“んんん～～～  
～つ！？

あ“……は……い……いつたああ……いつちゃつたああ……も、もう、

もおげんか……あ“つつは…………つつ！？

ひ、100回イって、孕むまでやめないって、そん、そんなの聞いて、  
お“あ“あ“あ“あ“…………！？

ぜ、ぜんしん、おひつぶされて、種付けぶれ、しゅうううううううつう！  
くるひ、くるひいいいいいんつ！？

う“つ、お“つ、お“んつ、おお“お“んつ、あ“あ“あ“あ“つ！  
お“つほ、お“うつ、あ“んつ、んひあ、あ“はあつ！ああ“ん、あう“つ、おつ  
ほ、おお“ん、あつは、あ“あ“あ“うつ！  
あ“、やば、いぎゅ、いつぎゅううう！？お“ひいつ、あ“あ“つ、おお“ん  
つ、おあ“あ“つ、おつほ、あう“う“んつ！

もうやめ……あ“あ“んつ！？いう“う“、いぐつ、いぐうつ、いぐう～～  
～～あ“つ！おあ“あ“つ、んおお“、あう“う“つ、あはあつ、んつひ、ひい  
いん！

ばかにつ、ばかになるうつ！？ぜ、ぜんひんイカされてつ、手足おさ

えつけられてつ、逃げ場ないよおおつ！

誰か、助け……じゅるるるるるるうつ！？(キスで口を塞がれる)

んぶつ、んぶふつ、んぶううううううつ！んじゅつ、じゅぞつ、じゅつ、じ  
ゅぞぞぞつ、んぶつ、んじゅつ、じゅるつ！じゅぞつ！んじゅつ！

んじゅう～～～～ぶはあつ！

はつ！はつ！はあつ！も、もうだめえ！お、おわり！おわりだから！

ぜ、ぜつたい中出しちゃだめ！

これ以上はほんとに墮ちちゃ…………お“お“んつつつ！！？

あ“—————つ……！ああ“—————つ……！あ“  
んつ！ああ“んつ！……中出し、され……！おお“んつ、おつほ、あ  
ひ、おう“つ、ああ“んつ！おつほおおおお……！

お“…………おお“…………う“つ…………あ“つ…………かはつ…  
…………お“つほ…………うあ“…………あ“ん…………な、あ……  
……あ、あ“……あつはあ“あ“…………つ！？

あんんんつつ！？だ……めえ……ぬい、たら、しお、でぢや  
…………お“つ…………ほおおお…………つ！  
がつ…………は…………つ！？おんつつつ！！？

お“…………あ“…………う“、お“…………あ“は…………つ！？  
う“つ…………あ“ん…………！あ“……が…………つ！  
……ご、ごめん、ねえ…………わ、わたひ、メスに……されちゃった  
あ…………

エピローグ 水晶に映るその顔は

(水晶から映像が浮かび上がり、衣服の乱れたメイアの姿が写る)

あ……映ってるの、かしら……？き、君……見えてる……？

あ、お、<sup>おどろ</sup>驚かせちゃったわよね。ご、ごめんね？

いま私は、その、<sup>おうじょう</sup>王城に、いるわ。<sup>かんきん</sup>別に監禁とか、そういうのじゃなく  
て、ただ呼ばれてここにいる、だけ

今はこっちの水晶と、君の元にある水晶同士を繋いで、お互いの様  
子を映しているの

だから、こっちからもそっちの様子は見えてるわ

げ、元気そうで安心したわ、フフ

……そ、そんなに不安そうな顔しない、で？

私はどこも怪我したりしてないし、これまで通り、君の妖艶で優しい  
お師匠様よ？ 何も変わりないわ

君のことは好きだし、甘やかしてあげたいし、たくさん抱き締めて  
あけだい

何も……そう、何も変わってないの

……え？ じゃあどうして帰ってこないのかって？

そ、それは、えっと、その……ある、事情があつて  
上手く言えないんだけど、ええと、<sup>おうじょう</sup>王城に、いてほしいって言われて  
るの

ほら、私って偉大な魔法使いじゃない？だから、お師匠様みたい  
に、私も偉い人達に頼まれちゃつて  
<sup>しなんやく</sup>指南役として、王城にいてくれないかって

ほら、<sup>たの</sup>頼まれたら断るのも悪いから、ね  
<sup>しなんやく</sup>指南役として働く代わりに、ここに住まわせてもらってるの  
あ……も、もちろん期限付きよ？しばらく経つたら、ちゃんと君の所  
に戻ってくるわ。だから、安心して待つて……あつ！？

(突然王子が現れ、メイアの胸を驚きにする)

ちょ、あなた何して……！？  
あの子と話してる時は大人しくしてるって言ったじゃな、んひ  
つ！？

ちょっと、いきなり乳首弄らない、で……ひうつ！？  
あ、ちょ、だめ、だつて……あの子がみて、る、からあつ！  
お……ひつ、は、あつ、だめ、だめ、だめええ……はあんつ！？

きもちよくなんか、ないって、ばああ……あひつ！？

や、やらつ、やら、あああああ、んくうつ！

ふつ、ふー、ふー……あなた、急に何してくれるのよ……！

約束は守りなさいよ……！

な、なによ。嘘を言っておいてよく言うって。私は嘘なんか、な、何一つついてないわ

私は指南役として、この王城に、んじゅうううつ！？

こ、このっ、離しなさ……んぶふううつ！じゅつ、んじゅつ、じゅぶつ、じゅつ、じゅぞぞつ、んつふ、んふううんつ、じゅるつ、じゅじゅじゅぞつ、じゅぶぶつ、んじゅ～～～つ！？ふは、あつ……あ……！

ご、ごめんなさ、い……うそ、嘘ついてました、あ……！

え、えっと、そのお……さ、さっきの話、ほんとは、全部ちがってて、  
その……ほんとはワタシ、指南役とかじゃなく、て……あの、だから  
……んぎゅつ！？

あつ、あつ、あつ！？ご、ごめんなさい！

ちゃ、ちゃんと言うから許してっ！<sup>びんかん</sup>敏感なところ弄らないでえっ！クリ  
と、中の敏感なとこ、両方はあ……あんつ！？

や、やめっ！やめてえええっ！言う！言います！

だからやめ、んひいいいんっ！わ、私は、私はあなたのメスになりま

したああっ！<sup>しなんやく</sup>指南役とかじゃなくて、あなたに抱かれるためのメスに  
なっちゃいましたあああっ！やああああん！

好きな時に、好きな場所で、好きなだけ中出しされる所有物に  
<sup>しょゆうぶつ</sup>  
お墮ちやったのおお！

で、でもっ、仕方ないのっ！君のことは大好きだけど、か、身体がこの  
人から離れられないのぉ！

<sup>ばか</sup>馬鹿みたいに大きいモノで、私の身体貪って、ぶぢゅって子宮を何  
回も押し潰してくるのっ！

こ、こんなの知らなかつたし、耳元で好きとか、俺のモノだ、とか囁  
いてくるしい……さ、最初は抵抗してたけど、いつの間にか堕とされ  
ちゃってたあっ！

君は、心は満たしてくれるけど、身体は満たしてくれないの……君  
は、君は悪くない、から

悪いのは、快樂なんかに負けた私のせいだから……君は自分を責  
める必要なんかない、よおおおおほつ！？

おあ“つ……は……！ うぞ……うしろから、いきなり、そうにゅうされ  
……あ“つは……！ いれられただけで、イッちや……おお“あああ  
……ん、はあ“……だ、めええ……！

……え、もう一つの嘘も言え……？

な、なんのこ、んおおおおおつほ……！ あ、あれのことですか、あ？

わ、わかり、わかりまひたあ……！

ほ、ほら、前に君に、いろいろ、報告してた、でしょお？

王子との勝負で圧勝した、<sup>しほ</sup>搾り尽くしてやった、とかあ  
あれ、ぜんぶ嘘なの……ほ、ほんとは、こうやってずっと、馬鹿みた  
いにイカされまくってたの……

<sup>かっこうわる</sup>君に格好悪いとこ、見せたくない、嘘ついてたけど……ほんとは、  
全部逆なんだあ……おお“つほ……ごめん、ねえ

ずっと勝負に負けて、<sup>な</sup>啼かされて、メスにされてたの……もう、魔力  
もほとんど吸われて、ただのメス奴隸にされちゃった……だから、  
ね。君のところには、もう帰れない、かも……

せめて、最後に、言わせて……君のこと、だいす、お“ひいいいい  
んつ！ ！ ？

う、うぞ……子宮の中、入って……あ“んつ！ ！ ？

あ“あ“んつ、おんつ、おつお、お“お“おおんつ、おう“つ、あ“つ、ふうう“

んつ、おごつ、は、あ“つは！？

うで、<sup>つか</sup>掴まれて、犬みたいにい、犯されてる、のおおお…………！？

やあつ、やああつ、うあああああああつ、こんなかっこう、見せたくない、

お“お“お“お“お“つ……！？

……が……あは……だ、だい、だいじょうぶ、だからあ……！

君は、私のことなんか、気にしないで、好きに生き、て…………お“

お“んつ！？

おほ……中だ、し…………おお“つは…………んひ……あ“ん…

…あ“つ…………！で、てる……でて、る……あ“……あ“つはあ……

……！

はあ一つ、はあ一つ、は、あ、は……はつ、あ……ひゅー、ひゅー……

わ、わたひ、かんぜんに、墮とされちゃった、みた、い…………♥

了